

第1部：認知症ケアパスの活用



認知症介護研究・
研修東京センター
主任研究主幹

進藤 由美

国は団塊の世代が75歳以上となる2025年をめどに、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築を目指しています。特に認知症の人の数が今後ますます増加していく中、認知症の人を地域で支えていくために、国は「オレンジプラン」を発表。その中で、「認知症ケアパスの作成・普及」が一番目の項目として挙げられています。

それでは、認知症ケアパスとはなんのでしょうか？ 連携ツールと何が違うのでしょうか？ また、ケアパスを作成・普及することで、どんな効果が期待できるのでしょうか？

認知症ケアパスの説明を通じ、皆様と共に、地域のケアパス作成・普及のために、一緒に考えていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

第2部：地域ごちゃまぜ会議



揖斐郡北西部地域医療センター
センター長

医師 吉村 学

卒後21年目の家庭医です。もうひとつの専門は「久瀬地域」「揖斐川町」です。目の前の患者さんをしっかり診ることのできる技量と人間性を磨きつつ、その背景にあるご家族や地域の状況もしっかりと頭にいれて、さまざまな皆さんと力を合わせて支えてケアを提供していく、そのことを通じて元気な地域にするお手伝いができればと考えております。

最近力をいれて取り組んでいることは、多職種間連携教育（Interprofessional education：IPE）です。限られた人材や資源の中で最大限の効果を出し、連携を図ることができる人材を数多く輩出することで、ひいては患者さんへのケアの質の向上につながると考えています。

岐阜県多職種連携人材養成事業 研修会「認知症についての多職種連携のあり方」



参 加 申 込 書



事業所名（または所属団体名）	電話番号
----------------	------

氏 名	職 種 <small>※兼務されている方は、主に活動されている職名をご記入ください。</small>
例) 各務野 太郎	例) 医師、看護師、ケアマネジャー、民生委員、福祉関係者、ボランティア、一般市民、学生、その他()

FAX.058-389-2627

各務原市ふるさと福祉村
事務局宛て

↑
この用紙を、そのままFAXで送信してください。